

二人に一人はがんになる時代ですから、外来でご自身のがんについて尋ねられる機会が増えました。

無責任な返事はできませんので、慎重に言葉を選んでお答えしていますが、「さすがにそれは心配し過ぎでしょう」と思われる場合が多く、なぜ僕がそのように判断したのか、ケースバイケースで客観的な根拠を示しながらご説明しています。

その際によく話題になるのが「がんの重量」です。それは胃がんでも、肺がんでも、白血病でも同じですが、がん細胞の数が10の13乗(10兆個)になると、総重量は10kgくらいとなり、人間は生命を維持することが出来なくなります。それが本来の意味の腫瘍死です。そこまで増える前に、感染や出血などで亡くなるケースの方が多いのですが、仮に転移があったとしても、がんの総重量が100や200g程度で身体が危険な状態になるとは考えられません。

手術や抗がん剤や放射線により、がん細胞の数が10の7乗(1000万個)まで減少すると、総重量が10mgとなり、いかなる検査でも見付けられなくなります。ちなみに、重さを徐々に減らしても、1gまでは手の平の感覚で分かるでしょうが、その100分の1となると誰も実感できないと思います。

がん細胞は体の中の無法者ですから、増えようとするすると警察に相当する腫瘍免疫の攻撃を受けます。それを上手く躲して勢力を伸ばすのは大変なことです。仮に数を増やしても、検査で見つかったらすぐに抗がん剤のミサイルも飛んできます。がん細胞が頑張って1000倍増えた所でたかだか10gですから、体の足を引っ張るにはほど遠い数字です。

私がしばしば「共栄は無理ですが、共存は出来ます！」と断言するのはこのようなステージです。それでも一度染みついた不安は容易に拭い去ることが出来ません。

がん細胞の増殖を抑える上で必要なのは、気力・体力・免疫力です。困ったことに、不安はその全ての力を削いでしまいます。強い不安の原因の一端に、訴訟社会のアメリカから形だけ導入した「過剰なインフォームドコンセント」があるのではないかと感じています。いつもお世話になっていて誠に申し上げにくいのですが、ご専門の先生方のご高配をお願いいたします。